

東京病院ニュース

第41号



発行元 独立行政法人 国立病院機構 東京病院
〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3-1-1
TEL 042 (491) 2111 FAX 042 (494) 2168
ダイレクト・イン・ダイヤル 042 (491) 4134
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/tokyo/>

7月号に寄せて

国立病院機構東京病院院長 大田 健

東京病院に4月から新たに加わった80人余りのスタッフも新しい職場に慣れ、各人の新鮮で張り切った気持ちが職場に活気を与えております。今年は梅雨が例年よりも10日も早く始まりました。梅雨らしい雨の日はこれまでに数えるほどですが、晴れた日の気温の上昇は梅雨を越して早くも真夏の趣です。今年も30羽余りのカルガモの雛が孵り、患者さんとスタッフのみんなを喜ばせています。彼らの成長速度には眼を見張るものがあり、よちよち歩きの時期も過ぎ、ヒトで言うと小学生の雰囲気が出てきました。母鳥が緊張して我が子を見守る姿には、母性愛を強く感じ感動すら覚えます。この自然に恵まれた環境は東京病院の大きな財産であり、建物を含めた素晴らしい医療環境をスタッフが十分に意識して、日常の医療に生かしていきたいと常に考えています。昨年10月から開始した二次救急も当番の医師と看護師、そしてコメディカルが力を合わせて一生懸命対応しております。呼吸器センターには、内科に肺癌のエキスパートである廣瀬医長と喘息・アレルギーを得意とする田下医長を迎えて、肺癌と喘息に関する診療機能の拡大を図りました。また、当院の伝統を引き継ぐ結核診療には、内部から鈴木純子医師が医長に昇任し、新たに小林統括診療部長も加わって、日本のトップレベルを維持しております。外科も深見医長を中心に順調に呼吸器の手術症例を積み重ね成果を上げております。喘息・アレルギーセンターでは、庄司副院長を中心に大島医長と田下医長が一緒になって喘息診療の一層の充実を図っているところです。消化器センターでは引き続き内科は上司医長を中心に、そして外科は元吉病棟診療部長を中心に、円滑な連携のもとに充実した診療をしております。総合診療センターでは、相澤センター長が東京医科大学神経内科主任教授として7月から栄転となったので、循環器内科に新しく迎えた青木医長を後任のセンター長とし、さらに充実を図るべく努力をしています。また相澤先生は地域医療連携部長でもありましたが、こちらの方は廣瀬医長が引き継ぐことになり、益田室長と力を合わせて地域医療連携が推進されることが期待されます。リハビリテーション科は新藤医長を中心に回復期リハビリテーションとして病棟を運営しております。眼科は山田医長が白内障手術で実力を発揮し、耳鼻咽喉科の田中医長、泌尿器科の山中医長、整形外科の堀医長もしっかりと専門領域を充実させております。臨床研究部は蛇澤臨床研究部長を中心に活発に臨床研究をしておりますが、新たに鈴川医長が加わることでさらに充実しました。当院は、病診連携を一層推進して、地域の中核病院に相応しい内容の医療が提供することを心掛け、スタッフ全員で努力して参ります。「自分や自分の家族がかかりたい病院」を念頭に、スタッフ全員がそれぞれの職責をしっかりと果たせる職場として、引き続き運営したいと思っております。これから猛暑がやってきますが、皆様の益々のご健勝をお祈りいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成 25 年 6 月 吉日



新任のご挨拶 呼吸器内科専修医

4月から呼吸器内科専修医としてお世話になっております光根歩と申します。都内の市中病院で2年間の初期研修を終え、呼吸器内科をより深く勉強するために、症例豊富で環境の整っている東京病院での研修を希望しました。まだ未熟ですが、これから多くのことを吸収していきたいと思っております。宜しくお願い致します。

光根 歩

今年4月より呼吸器内科専修医として着任致しました赤羽と申します。これまでに市中病院、大学病院などで初期研修及び呼吸器診療に携わり、さらなる理解を深めたいと考え、東京病院に参りました。まだ着任して2ヶ月足らずですが、日々自分の勉強不足を痛感するとともに、診療の中で新たな知識や技術を得ることができ大変有意義な日々を送っております。ここ東京病院は日本でも有数の呼吸器病床を持つ病院であり様々な疾患で苦しんでいる患者さんがいらっしゃいます。そういった方々に対して少しでもお役に立てるようにこれから頑張りたいと思っております。何卒よろしくお願い致します。

赤羽 朋博

昭和大学の医学部を卒業し、昭和大学病院で昨年度まで勤務していましたが、呼吸器について幅広く勉強することを目的に東京病院で仕事をさせていただくことになりました。もちろん呼吸器疾患について深く学べる点も魅力には感じていましたが、母の実家がひばりが丘にあることもあり、この地域で仕事することは以前からの希望だったので、2つの希望がかなってとてもラッキーに思っています。

まだまだこれから勉強していくことばかりでご迷惑をおかけするとは思いますが、よろしくお願い致します。

扇谷 昌宏

私は将棋の街、山形県天童市で育ちました。山形・・・そろそろさくらんぼが恋しい季節です。初期研修は山形県立中央病院で研修させていただき、今年医師3年目です。呼吸器内科医としての第一歩を当院でスタートさせていただき、豊富な症例、指導医の先生方、専修医の先輩方、同期と毎日が刺激的です。まずは一つ一つの症例を大事にしたうえで、研究意識も持ちつつ尽力したいと思います。よろしくお願い致します。

武田 啓太

私は筑波大学を卒業後、東京都立大塚病院にて初期臨床研修を修了し、4月より当院で研修をさせていただいております。呼吸器内科は診断や治療が難しい病気も多いですが、一人でも多くの患者さんに安心していただけるよう、また呼吸器分野のみならずその他の分野においても可能な限り対応できるよう努力して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

加藤 貴史

4月より呼吸器科専修医として勤務させていただいております森彩です。私は、昨年度まで3年間、栃木県にある自治医科大学の呼吸器内科に所属し、大学病院や一般病院で勤務しておりました。東京病院は呼吸器内科一般病床200床、結核病床100床を有し多様な疾患の患者様の診療をさせていただくことができることから研修を希望いたしました。誠心誠意業務に励み、最善を尽くします。どうぞよろしくお願い致します。

森 彩

東京病院にきて早くも2か月が経ちました。呼吸器内科医になろうと漠然と考え始めたのが去年の同じ頃だったなと懐かしく思い出します。今では、経験豊富な先生方やスタッフの方々に囲まれて毎日浴びるように肺疾患の知識にいい意味で曝露でき、呼吸器内科を学ぶ上で非常に恵まれた環境で勉強させていただいていることに非常に感謝しています。貪欲に学ぶ姿勢を持って、実りある研修生活となるよう努力していきますので今後ともよろしくお願い致します。

齋藤 美奈子

今年4月より呼吸器内科でお世話になっている安藤孝浩と申します。私は東大病院で研修後に、東京警察病院内科で勤務しておりました。当院は日本で有数の呼吸器専門病院であり、豊富な症例を毎日勉強させていただいております。各専門分野の指導医の先生方、医療スタッフと一緒に、患者様とご家族が安心して治療を受けられるように努力していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

安藤 孝浩

NST稼働施設に認定されました

栄養管理室長 野口一彦

平成 25 年 4 月 1 日付で東京病院は日本静脈経腸栄養学会（J S P E N）の N S T 稼働施設に認定されましたので報告させていただきます。

私たち医療スタッフは全ての患者様の病気が早く治って欲しい、1 日も早くお家へ帰れるように、という思いでサポートしています。その上で欠かせないものが栄養管理です。

N S T とは栄養サポートチームのことです。様々な医療スタッフがチームを組み、患者さんに最もふさわしい方法で栄養状態を良好に保つことを目的とするチームのことです。栄養状態が悪いと、どれだけ治療してもなかなか回復できませんし、また手術後に感染症や合併症を起こしてしまうこともあります。このような問題を解決するためのチームが N S T です。

東京病院に於いての N S T は、7 東西病棟を中心に平成 18 年から活動を続けてきました。活動内容は、栄養状態の良くない患者を見つけ出して問題点を抽出し、方法を検討し、主治医に提案し、実施します。そして、経過を見ながら再検討するという地道で根気のいる活動ですので、やはり多職種の協力が必要です。

多職種からなる N S T における役割を簡単にご紹介します。

- 【医師】 合併症も含む病状・身体状況の把握・栄養状態の判定・栄養ルート of 判断・主治医との調整（治療方針の確認）など
- 【管理栄養士】 栄養評価・摂食状況把握・栄養摂取方法の提案・問題点の抽出・栄養補助食品の情報提供・患者、家族への食事指導や疑問点への回答
- 【看護師】 栄養状態の観察・問題の抽出・主治医の治療方針の確認・新規依頼患者様の身体計測（身長・体重等）・食事に対する情報収集・病状や栄養摂取状態の観察アセスメントなど
- 【薬剤師】 薬剤による副作用・合併症の早期発見・予防・栄養療法関連製剤の情報提供など
- 【リハビリ科（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）】 各種リハビリテーション状況の把握・食事摂取状況の情報提供とアドバイス・摂食嚥下障害に関する情報提供
- 【臨床検査技師】 検査データの情報提供・検査値から見る栄養評価
- 【事務職員】・事務手続き全般・会議の記録など

稼働認定を頂いたのは一つの節目です。これからも基本的な地道な活動は変わりません。最新情報を取り入れ、より良い提案ができるようにチーム一同頑張りたいと思います。



NST研修会



カンファレンス

ようこそ、東京病院へ

— 新採用者オリエンテーション —

当院敷地内にひろがる桜並木の花が満開の時、期待と不安で緊張した表情の新採用者が、東京病院の新しいメンバーとして加わりました。

今年の新採用者は、医師、看護師、メディカルスタッフ、事務等の全 80 名（写真1）です。新採用者は、社会人として初めの一步を当院でスタートする職員、前の職場で十分な経験を積んできた職員、これから新しい業務に取り組んでいこうとする職員など様々なメンバーです。



(写真1)

そのような新メンバーを対象に、4月1日から5日にかけて新採用者オリエンテーション（写真2）を実施しました。オリエンテーションの内容は、国立病院機構の概況説明に始まり、当院の現状と課題、病院経営、諸規定と就業規則、各部門紹介、医療人として必要不可欠な医療安全の基本、院内感染防止対策など、盛り沢山の内容でした。また、4日目の後半から5日目は、看護師の新採用者を対象に、看護技術の研修（写真3）を行いました。



(写真2)



(写真3)

辞令交付、大田院長の挨拶時には緊張していた新メンバーも、時間が経つにつれ、親しい仲間と談笑するなどリラックスしつつも、真剣な眼差しで講義や技術研修に臨み、東京病院の一員としての自覚は十分といった様子でした。また、今年度からの新たな試みとして、2日目の夕方に新採用者懇親会（写真4）を実施し、病院幹部職員等と懇親を深めることができました。



(写真4)

新メンバーにとっては、これから初めて経験することや、新しい環境での生活で戸惑うこともあるかもしれませんが、一日も早く東京病院での業務や人間関係に慣れ、自らの実力や可能性を発揮していただきたいと思います。

新しいメンバーを迎え、東京病院が今まで以上に患者さんから選ばれ、地域に信頼される病院となり、職員にとっても働き続けていきたい職場となるように努力してまいります。

職員係長 吉田大助
副看護部長 安里磨智子

「第1回東京国際呼吸器セミナー：キング教授を迎えて」

呼吸器科 松井 弘稔

東京病院主催で4月17日水曜日に第1回東京国際呼吸器セミナーと第1回東京病院 International Lung Conferenceを開催しました。米国から日本呼吸器学会のゲストとして来日されたキング教授を東京病院に迎える機会を利用して、午後、東京病院で当院の若手医師との症例検討会を行い、夜には丸の内で講演をしていただきました。キング先生はカリフォルニア大学サンフランシスコ校の教授で学部長に当たります。間質性肺炎という肺の病気では世界的に有名な先生で、教科書も執筆されています。英語の講演を聞く機会があっても、英語で議論をする機会というのはそうそうあるものではありません。

医師にとって、英語は最新の文献や情報を得るためには必要ですし、論文を書くときには英語で書いた方が世界中の多くの人に読まれるというメリットがあります。しかし、普段の診療は日本語ですしカルテも日本語ですから、意識しないとなかなか英語は身につけません。当院の若い先生方も、英語の文献は読むものの英会話はなかなか大変です。私は米国に留学して英語で議論したり、論文を書いたりしていた経験があり、それを生かして、医学論文や症例報告を読みながら英語で議論をする会というのを1年ほど前から開催していましたので、この機会をとらえて普段の訓練の成果を出してもらおうと思いました。

症例は間質性肺炎の症例4例で、どれも興味深い経過です。事前に内容をチェックして発表の予行をし、本番も滞りなく発表し、議論も深まりました。世界のトップと議論を戦わすことで、清瀬にしながら、世界の中での自分たちのポジションが確認できました。そのあとは場所を丸の内に移して、キング先生の講演です。特発性肺線維症についての最新の情報を1時間の中に詰め込んだ内容で、興味深いものでした。

この2つの会合を通して、日々の臨床の中で目の前にいる患者さんに最善の医療を行うためには、世界の最先端を意識することが必要性であると感じました。日本と米国での考え方の違いも感じました。論文になったものを英語で読むことだけでは得られない、肌を感じるものがありました。米国でも日本でも、普段の臨床の場で解決できない疑問を共有しながら、将来の解決に向けて思い悩むということはその場にいたすべての医師が共有する意識であったと思います。今後もこういう機会をとらえて知識・経験を増やしていくことで、少しでも患者さんのためになるように努力していこうと思います。



回復期リハビリテーション病棟紹介

今年度から、東京病院3西病棟は「回復期リハビリテーション病棟」として新たなスタートを切りました。「回復期リハビリテーション病棟」は、脳血管疾患や大腿骨・脊椎骨折後、肺炎や術後の廃用症候群などで身体機能の低下や日常生活上の困難を抱え、原因となる疾患の発症や手術後2ヶ月以内の状態にある方を対象に、多職種チームによる専門的なりハビリテーションを行い、疾患ごとに決められた入院期限の中で可能な限りの生活機能改善と在宅復帰を目標としたリハビリテーション専門病棟です。

専従のリハビリテーション専門医が主治医です

複数のリハビリテーション科医師が、基礎疾患の管理と科学的予測に基づいたリハビリテーションを行います。主治医とチームの責任者を兼ねることで、より安全で質の高いリハビリテーションを提供します。

合併症にも可能な限り対応します

呼吸器科・呼吸器外科 消化器科・消化器外科・循環器科・神経内科・整形外科・眼科・耳鼻科・泌尿器科・歯科など、院内のすべての科と連携して治療を行います。必要と判断すれば院外の専門医療機関とも連携します。

専門家が多職種チームで支えます

医師・看護師・理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・語聴覚士（ST）・医療ソーシャルワーカー・栄養士・薬剤師・歯科衛生士など、チームワークには30年以上の実績と自信があります。

介護保険サービスと連携し退院後の在宅療養を支えます

通所（介護・リハビリ）、訪問（医療・看護・リハビリ・介護）、ショートステイ 家屋改修・福祉用具など、ケアマネジャーやかかりつけ医ともきめ細かく連携し、安心して自宅に帰れるケアプランを作成します。

豊かな自然環境と交通の便にも恵まれた理想的な療養環境です

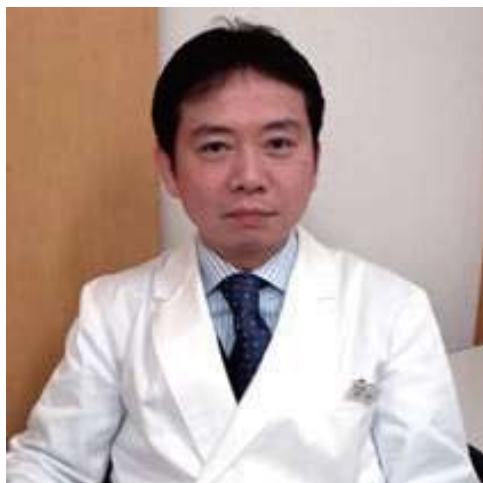
春には梅・辛夷・桜が次々と開花し、初夏には愛らしいカルガモが孵り、秋は美しい紅葉が希望を後押ししてくれます。

西武池袋線清瀬駅からは病院玄関前に停車する路線バスがあり、JR 新秋津駅からはシャトルバスが運行されています。

急性期医療が終了し、リハビリテーションが行える全身状態の方で、在宅復帰を目指す方が最もよい適応となります。連携医の先生方からも積極的にご相談をお受けしたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



連携医のご紹介



清瀬内科クリニック

院長 田中 英樹

総合内科専門医
(旧日本内科学会認定専門医)
・医学博士

【診療科目】

循環器内科 糖尿病内科
脂質代謝(高血圧・脂質異常症)内科

当院は、清瀬駅南口すぐに位置し、糖尿病、高血圧、高脂血症などの生活習慣病を主に診療している内科クリニックです。清瀬、東久留米、新座の方が多く受診されています。健康診断や人間ドックで異常を指摘された方の健診結果をわかりやすくご説明しています。糖尿病、高血圧、高脂血症の予備軍と診断された方や内服、糖尿病のインスリン療法が心配で受診されていなかったという方も多く受診されています。木曜日は慶応義塾大学病院の糖尿病・代謝(脂質異常症・高血圧)内科からの派遣医師による専門外来を行っています。

当院の治療方針

生活習慣病は偏った生活サイクルと食事および運動不足が原因で発症することが多く、その進行にも大きく影響します。したがって、治療はまず生活習慣の改善に取り組みます。お薬は最小限必要なものだけにしています。生活習慣病は、はじめのうちは症状がなく放置しがちですが、放っておくと動脈硬化が進行し狭心症、心筋梗塞、脳卒中(脳梗塞、脳出血等)の命にかかわる病気になることがあります。しかし、ちょっとした生活サイクルと食事、運動の改善で良好な結果が得られることが少なくありません。治療方針はよく話し合っ決めてしますので心配されず受診ください。また、一般内科の診療にも力を入れています。ご来院をお待ちしています。

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 8:30～ 12:15	○	○	○		○	○
8:30～12:00				専		
午後 2:00～ 6:45	○	○	※		○	
1:00～4:15				専		

専：木曜日は慶応義塾大学病院の糖尿病・代謝(脂質異常症・高血圧)内科から派遣医師による専門外来です。

※：第3水曜日午後のみ 6:15 に受付終了します。

初診の方と検査が必要な方は、受付終了 15 分前までにご来院ください。

休診日：日曜・祝日

当クリニックの方針

1. 全職員が患者様のお話を十分お聞きするようにしています。
2. 検査結果、症状、病気についてわかりやすく説明しています。
3. 患者様に採血結果をお渡しています。
4. 検査、治療は患者様と十分話し合っ行っていきます。
5. 精密検査、専門的治療が必要な方には専門病院をご紹介します。
6. 全職員が患者様の不安を解消できるよう努めています。

診療内容 病床数560床

- 呼吸器センター
 - 喘息・アレルギーセンター
 - 消化器センター
 - 総合診療センター
- 呼吸器内科
 - アレルギー科
 - 消化器内科
 - 総合内科
 - 呼吸器外科
 - 眼科
 - 消化器外科
 - 循環器内科
 - リハビリテーション科
 - 耳鼻咽喉科
 - リハビリテーション科
 - 神経内科
 - 泌尿器科
 - 皮膚科
 - 放射線科
 - 麻酔科
 - 放射線科
 - 緩和ケア内科
 - 臨床検査科
 - 歯科

平成25年度「清瀬市健康診査」受付中です。

〈実施期間〉 平日（月～金）及び第2・4土曜日

〈受診を希望される方は〉

当院は完全予約制となっております。ご希望の方は予約センターまでお問い合わせ下さい。

なお、受診の対象となる方にはあらかじめ清瀬市から「受診券」が郵送されますので、受診券が届いた方から予約をお願いします。

【予約センター：TEL 042-491-2181 受付時間：平日8:30～15:30】

受付時間：初診 8:30～14:00 (消化器内科の月、金は12:00までの受付) 予約センター 042-491-2181
 再診 午前の診療 8:00～11:00 午後の診療 12:30～14:00 (受付時間平日8:30～15:00まで)

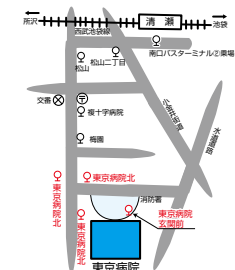
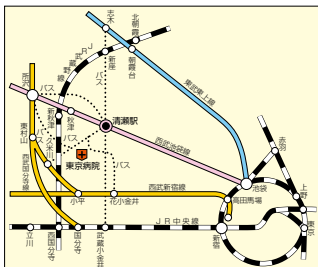
専門外来案内

専門外来名	診察日	このようなことでお悩みの方は、ご相談ください
禁煙 (予約制)	火(午前)	タバコがどうしてもやめられない方。 (当院の禁煙外来は、平成20年1月より保険が適用となりました。)
呼吸器関係外来		
肺がんセカンドオピニオン (予約制)	木(午後)	肺がん治療についてのセカンドオピニオンを希望される方。 [1時間まで10,500円]
咯血 (予約制)	火(午後2時～)	咳をともなって気道・肺から出血する状態を咯血といいます。肺アスペルギルス症、気管支拡張症、非結核抗酸菌症、肺結核、肺癌の患者さんにおこります。ご相談ください。
間質性肺炎	水(午前)	この病気は「息切れ」と「から咳」がよくある症状です。 治療が難しく、膠原病に合併する場合があります。
非結核性抗酸菌症	水(午前)	咳や痰が出て、血痰があるなど一見結核にみえますが違います。 結核とそっくりの症状がこの疾病です。他人への感染はありません。
いびき COPD (睡眠時無呼吸症候群の検査)	月～金(午前)	ご家族などから「いびきが大きい、長く続く」あるいは「ねている時に息が止まる」などと言われた方。COPDを疑われたり、COPD呼吸リハビリを御希望の方。
ものわすれ外来	水(午後)	最近ものわすれのひどい方、アルツハイマー病などが心配な方。 (あらかじめ神経内科を受診して下さい。)
高次脳機能外来	木(午後)	失語・失行や健忘などの診断、リハビリテーションへの紹介など (要神経内科外来受診)。
肝胆脾	金(午後)	肝臓癌、胆嚢癌、胆管癌、膵臓癌や胆石症など、肝胆脾疾患の手術のご相談、お申し込み、セカンドオピニオン等に、専門の医師が対応いたします。
地域リハビリ相談	木(午前)	連携医の先生方からかりつけの患者様で、運動・言語・嚥下機能に問題があり、リハビリテーションをご希望の方。(かかりつけ医の情報提供書が必要です。)

医療連携室よりお知らせ 患者様をご紹介いただく場合 (医療機関)

外来診療の予約 : 診療依頼書をFAX送信して下さい FAX 042-491-2125 (8:30～15:30)
 CT・MRI検査の申し込み: 医療連携室へお電話下さい TEL 042-491-2934 (8:30～17:15)

交通案内



交通

- 西武池袋線 清瀬駅南口よりタクシー5分、または南口バス2番乗り場より久米川駅行・所沢駅東口行は東京病院北下車、下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行は東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR武蔵野線 新秋津駅よりタクシー10分、または西武池袋線に乗り換え。
- 西武新宿線 久米川駅北口より清瀬駅南口行で東京病院北下車。または花小金井駅北口より清瀬駅南口行きで東京病院玄関前下車。(早朝夜間など東京病院玄関前を経由しない場合があります。)
- JR中央線 武蔵小金井駅より清瀬駅南口行のバス路線があります。
- 東武東上線 志木駅南口より清瀬駅北口行のバス路線があります。
- お車でお越しの際は正面よりお入り下さい。

(駐車場265台)
 30分以内 無料
 31分～4時間 100円
 以後1時間毎 100円
 (20時15分～7時 1時間毎300円)

WEB検索

東京病院

検索

